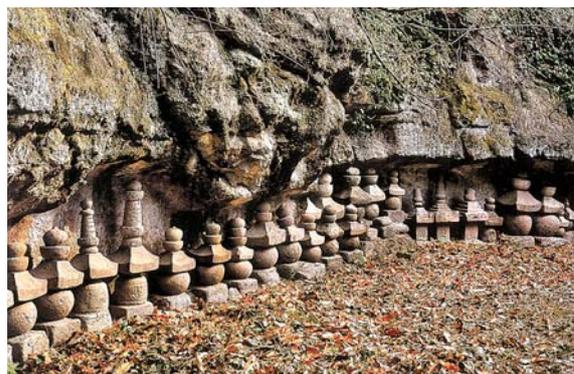




▲磨崖仏近景



▲岸壁内の五輪塔等

こうりゅうじあとせきとうぐん 興隆寺跡石塔群

一山の中に佇む石塔群—

七宝山の南東部、川のせせらぎの聞こえる谷沿いの山道の先に、本山寺の奥ノ院と言われている「興隆寺跡」があります。寺は現存しておらず、その広さなどは不明ですが、100基あまりの石塔群があり、「興隆寺跡石塔群」として昭和51年6月に県指定史跡になりました。この興隆寺跡石塔群は豊中町下高野に位置しています。

興隆寺跡石塔群は、岸壁の上下2段のテラスに確認されており、石材には天霧石と三豊石が使われています。山道を登っていくと、まず「磨崖仏」である不動明王像がその姿を現します。磨崖仏とは、岸壁を掘りくぼめながら描かれた仏様のことです。興隆寺で行事等が行われた際には、この不動明王像に多くの人々が願い事をしたといわれています。

この不動明王像の左右には30基ほどの五輪塔が岩壁に沿うようにずらりと並んでいます。この場所からさらに上へ登っていくと、五輪塔や宝塔などの石塔群が70基ほど並ぶひらけた場所にたどり着きます。それらはすべて大きな岩壁を庇状に掘りくぼめた中に祀られています。静寂に満ちた、標高およそ100mの山中に広がるこの光景はとて神秘的であり、訪れた人々を圧倒させます。

この石塔群は、鎌倉時代後期から室町時代末期にかけて、約200年の間、継続的に造立されたものと考えられています。数が多く、風化もあまり見られないという非常に良好な状態で残っており、中世における石塔の様相を探ることのできる重要な遺跡と言えるでしょう。

<生涯学習課>

今月の市民力

三豊市に埼玉県から移住してきた程島さん家族。無農薬で野菜を作り、その時期に採れた新鮮な野菜を段ボールいっぱいに詰めて、お客さまに三豊市の野菜を届けています。心をこめていねいに作った野菜は箱を開けた人をきっと幸せな気持ちにすることでしょう。プライベートでは、山登りをしたり、音楽をしたりと、みとよぐらし、みとよじかんを満喫しているようです。

